

多様化する生き方と自治体のジレンマ・少子化時代の結婚支援

(質問) 本市においても出生数の減少、生涯未婚率も上昇傾向にあるが、この背景には、経済的不安や女性の社会進出、そして「結婚は必ずしも必要ではない」という価値観の広がりがある。一方で、結婚を望みながらも、出会いの機会に恵まれない、あるいは経済的な事情から結婚に踏み切れない若者も少なくない。出会いや就労の場が多様化しているにもかかわらず、結婚に至らない現状は、人生設計や価値観の変化を反映しているとも言え、個人の自由や選択が重視される時代の到来を示しており、結果として少子化や出生率の低下につながり、自治体運営を難しくしていることは否めません。先ずはこの価値観の多様化と生涯未婚率の上昇や出生率の低下の関係性を市長はどうお考えなのか伺います。

(市長) 少子化の背景には、晩婚化や若い世代の経済的な不安、仕事と育児の両立の難しさなど、様々な要因があり、結婚や出産に関する価値観の多様化も、その要因の1つであると認識をしている。結婚や出産などの選択は、個人の価値観により主体的に行われるべきであり、その選択にあたっては、将来の具体的な展望を持てるよ、フレコンセクションケアによる正しい知識の浸透や、ライフデザインの支援の取り組みの他、若者の結婚や出産、子育ての希望を実現できる環境づくりが重要。せんだいこども若者プラン2025では、重要な視点の1つに、少子化の課題への対応を据えて取り組むとした。仙台で暮らし、働き、結婚や子育てをしたいと望む方々が自分らしく幸せに生きられるまちの実現に向けて力を尽くします。

Point

◆結婚支援の現状と行政の立場

- ・コロナ後、多くの政令市が結婚支援に本格着手。
- ・行政としては結婚・出産を望ましいものと制度化せざるを得ない。

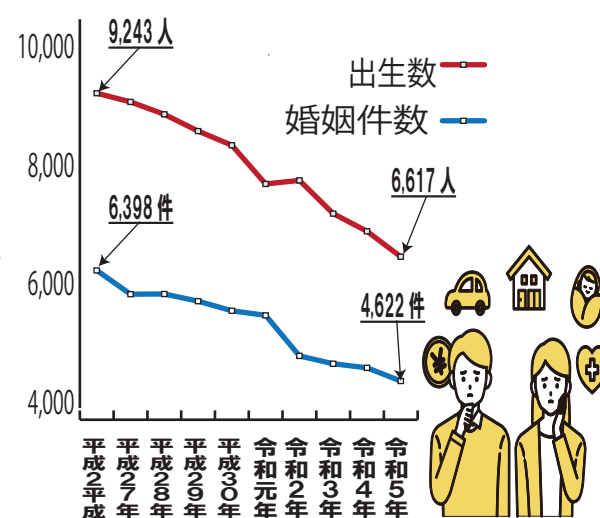
◆民間サービスとの連携と課題

- ・宮城県の結婚支援「みやマリ！」はあるが、内容は限定的。
- ・地元金融機関では、交際・結婚・生活設計までを支援する取組が進む。
- ・民間は費用負担が若年層にとって高く、利用の障壁になる。
- ・民間サービスの費用補助が最も効果的ではないか。

◆地域社会の変化と行政への期待

- ・昔は地域の後押しで自然に結婚が決まる文化があった。
- ・現代は自由が尊重されすぎ、背中を押す人がいない時代に。
- ・行政には、温かく後押しする支援のあり方が求められる。

仙台市の近年の出生数と婚姻件数



ゴミ屋敷問題への本市の対応方針と京都市の知見の活用について

(質問) 前回の仙台市議会、一般質問の答弁において、ゴミ屋敷対応の進都市の京都市からの詳細な聞き取りを行う予定とのことでしたが、京都市から得られた知見とその知見を踏まえ、本市として、いつまで、どのような組織体制を検討するのか伺います。

(市民局) 京都市では、いわゆるゴミ屋敷の解消に向け、居住者に対し解消を働きかけるとともに、社会的孤立や疾病など、様々な事情によりみずから解消が難しい課題は、市や福祉団体等が連携し、生活課題への支援を行っている。本市も、引き続き問題の事案への対応を行い、京都市の例も参考にしつつ、**年内を目途に**、支援体制のあり方について検討を進めたい。

市政報告

令和7年6月発行 VOL35

☎ 090-2275-3540

✉ mas.tamura@icloud.com

仙台市議会議員【宮城野区】田村 勝

仙台市議会の令和7年第2回定例会が、6月24日に閉会しました。一般会計補正予算を含む計20件の議案が可決。補正予算案は、約2億5,300万円の増額が盛り込まれております。その中には、西公園に整備が予定の屋内型の遊び場に関し、周辺の交通環境を調査するための経費として、3,200万円が計上されています。さらに本議会では、超党派の議員が提出した、「終活」、人生の最終段階に向けた準備を支援するための新たな条例案も可決しております。今回も一般質問に登壇しました、最近の地域課題も含めて報告します。

一般質問【6月18日】

4:04:30 頃から

○クルーズ船誘致の国際標準と仙台港の立ち位置

○民間連携と公的支援の融合による婚姻促進の可能性

○地域の担い手不足と世代間ギャップー町内会の再生に向けた官民連携の視点

○涼しい公園はつくれるか？ー猛暑時代の“遊び場”再設計

○ごみ屋敷ー京都から学び、仙台で活かす取り組みとは



仙台市議会
YouTube

夏の公園、大丈夫？子どもを守る涼しさ改革！？

(質問) 仙臺緑彩館におけるドライ型ミストの整備や、高砂中央公園での水遊びができる工夫など、具体的な対応を求めてきたが、進められたことは、地域の子どもたちや来園者にとって大きな安心材料となった。一方で、これらの取り組みを通じて明らかになった課題や、実施後に寄せられた市民の声等もあるかと思えます。昨年度の取組みに対する改善点をどのように受け止めているか、また、今年度はさらに効果的な暑さ対策として、どのような新たな取組みを予定されているのか。

昨年度の高砂中央公園

【水遊び用スプリンクラーの設置】



【緑のカーテン設置】 【日陰の設置】



(建設局) 昨年度は、ドライ型ミストやスプリンクラーや簡易プールを設置し、多くの来園者から好評いただいた。一方で、利用人数に制約があったことから、より効果的な設置場所の工夫や、拡充の必要があるものと認識。今年度は新たに高砂中央公園では、**竹で水鉄砲をつくるワークショップ**の開催や、海岸公園冒険広場でのブルーシートを用いた手づくりの**ウォータースライダー**を予定している。引き続き公園における暑さ対策や、水遊びの実施に取り組んで参ります。